

ふるさと 風声



☒ 村山和夫氏(中56回)『高田藩』上梓



江戸時代の全国の藩を紹介する現代書館「シリーズ藩物語」の『高田藩』が出版された。著者は、元上越市史編さん委員の村山和夫さん(中56回)。歴史、産業、

教育、文化、城下の生活など幅広く紹介し、現代につながる気風のルーツが、綿密な取材、研究により語られている。

高田藩は堀氏改易後、徳川家康の六男松平忠輝をはじめ徳川一門または譜代の大名が入府した。これは加賀前田家への備えと

佐渡金山輸送路の安全確保のためとしている。

幕末の混乱期に榊原家は朝廷に幕府の寛大な処置を、幕府には朝廷に謝罪を勧めた「あいそかんそう哀訴諫諍」を藩是とした。この礼節と情けを重んずる高田藩の立場は、朝廷側にとって不審藩と見られたが、最後の藩主・榊原政敬は「至誠はやむことなし」との言葉に藩是が誤っていないとの自負を込めた。義に生き大義に殉ずる謙信公の精神が受け継がれてきたと結んでいる。

同社の「シリーズ藩物語」第12弾。既刊には長岡藩、会津藩、高遠藩、米沢藩などがある。1,600円。

小林世紀子(高11回)

☒ 蟹江健一&渡辺義一郎 『雨飾山と海谷山塊』 上梓

故 蟹江健一氏（高6回）と直江津雪稜会の渡辺義一郎氏による『雨飾山と海谷山塊』—われらが希望の山々—が刊行された。雨飾山及び烏帽子岳、鬼が面山など、海川をはさむ西頸城の海谷山塊について、両氏が『雪稜』など各種の刊行物に寄稿してきた文章を中心に構成されている。

雨飾山と海谷山塊は、蟹江・渡辺氏と高田高校山岳部などが中心となり、近代的なアルペンルートを開拓してきた山々である。その登山記録やルートはもとより、山々と人々の暮らしとの関係や登山史を伝説や山名の由来なども交えて、歴史を遡って説き起こしている。中でも、江戸時代に行われた雨飾山集団登山など、古文書から発見した話は興味深い。

日本百名山の一つ雨飾は、深田久弥が3

回チャレンジし、最初の挑戦から16年後の昭和32年によく登頂に成功した山だという。高田にも訪れ、大手町小学校で講演をしている。蟹江氏はそのことを

「深田久弥と頸城山塊」で、雨飾における志げ子夫人とのロマンスも交えて興味深く紹介し、「深田久弥の登山人生において最も印象深かった山ではなかったのか」と述べている。

直江津雪稜会の小林敏明氏による数多くの写真も素晴らしい。恒文社刊。1,680円。

高橋 誠（高26回）



☒ 高高同窓ゴルフコンペ、益々盛んに！ 若手に参加を積極呼びかけ

高田（中学）高校同窓ゴルフ会、今年で第13回となりました。コンペ会場のグリッサンドゴルフクラブは成田国際空港直近、芸能人やスポーツ選手が海外旅行前に使用するので有名な、ゴージャスなコースです。千葉・成東の山武グリーン同様、高田高校16回生の4人が脱サラして創立した会社が運営・管理に携わっているという縁があります。

1月13日厳寒の中、高田高校卒の健男健女170人のプレーヤーが集結しました。うち30人は上越からの参上、これまでで最多で

す。中でも貸切バスできたグループ19人は、前日に成田山新勝寺に初詣で、優勝を祈願し、ホテルで首都圏の仲間と合流して新年会兼前夜祭を開いて氣勢を上げました。

グリッサンドゴルフクラブでのコンペは2度目となりますが、従前の山武グリーンより難度が高く、距離もたっぷり、ということで、今年は65歳以上の先輩は、シニア・ティーからのスタート。70歳以上と女子はグランドシニア・ティーとしました。

ところが、この新ルールが思わぬ波乱を呼びました。ネット上位50人中31人がシニ

ア・ティー、グランドシニア・ティーからスタートした大先輩たちに占められました。優勝は70歳の斉藤勇吉さん(高8)、ベストは68歳(高10)の堀好晴さんでした。各学年の上位4人のネット合計で競う学年対抗戦も、高7回生が優勝、3位が高6回生という結果になりました。かろうじて高22回生(57歳)が2位に食い込みましたが…。コンペの世話役グループは予想だにしない結果に啞然。大先輩のみなさんの若さ、実力への推考が足りなかったと反省しきりです。

ところで、高田(中)高校同窓ゴルフコンペの参加者は、このように元気な大先輩たちの活躍もあり、平均年齢が高くなってきています。そこで、佐久間昇二コンペ実行委員長の音頭とりで、40代、50代を中心に参加呼びかけを積極的にやろうと、若手?からなる世話役グループを去年発足しました。呼びかけが功を奏して、今回のコンペでは、この世代から16人の新規参加者を得ました。また上越からも貸切バスを仕立てて、母校から校旗を借り出してきたの積極参加となりました。



打上げは校旗に向かって『妙高山……』

表彰式で、大先輩が「この他に例を見ない高校同窓大コンペ、ギネスブックに載るまで続けましょう！」と高高健男健女を代表して挨拶し拍手喝采を受けましたが、そのためにも高田(中)高校同窓のゴルファーの皆さん、来年も、ぜひ、若手(50代以

下)を誘って参加ください。そしてゴルフ場で声高らかに「妙高山は～」を謳いましょう。

コンペ世話役グループ長
上野邦治(高15回)

☒ 「ふるさと納税」のすすめ

・「ふるさと納税」とは

「ふるさと納税」とは、ふるさとへ贈る寄付金のことです。ふるさと（出身地に限らず、あなたが応援したい自治体）へ寄付した場合には、現在納税している自治体の住民税などから一定額（おおよそ個人住民税の一割の額）まで控除されます。

・「ふるさと納税」の経緯

一般に大学を卒業させるまでにかかる学費は7千万円だと言われています。それ以外にも衣食住をはじめ怪我や病気の治療費などがかかり、これらの費用は両親や地方自治体が負担してきました。しかし、都会へ出て働く若者は住んでいる都会へ納税することとなり、多くの費用を負担した地方へはほとんど還元されません。そんな中で「ふるさと納税」制度がスタートしました。

・地方間での寄付金の取り合いが始まる

「ふるさと納税」は納税ではなく寄付であ

るため、一定以上の金額を寄付した場合に特典を設けている自治体も出ています。

◇ 県外在住者が5万円以上を寄付した場合は『奈良のうまいもの』を贈呈。（奈良県）

◇ 市外在住者が1万円以上を寄付した場合は特産品（送料込み5千円相当）を贈呈。（山口県萩市）

また、兵庫県西宮市は「ふるさと西宮・甲子園寄付金」を募っています。このように、地方間での取り合いが始まったと言っても過言ではない状況です。

・有志よ！上越市へ寄付の申込みを！

今すぐに、昨年の個人住民税の額を調べ、寄附金の額を決め、上越市へ連絡してください。私も既に手続きを行ないました。「ふるさと上越ネットワーク（Jネット）」でも「ふるさと納税」を応援しています。

Jネット会長 和久井博（高12回）

